オプション

- AdminConfiguredBot （2 ページ）
- AllowUserCustomTabs （2 ページ）
- BrowserEngineForCustomTab （3 ページ）
- CalendarAutoRefreshTime （3 ページ）
- CalendarIntegrationType （3 ページ）
- Callhistory_Expire_Days （4 ページ）
- ConfigRefetchInterval （4 ページ）
- ConfMediaType （5 ページ）
- Disable_Meeting_SSO_Browser_Cache （5 ページ）
- DisableClientConfigExchangeServer （5 ページ）
- DockedWindowPosition （6 ページ）
- DockedWindowVisible （6 ページ）
- EnableBridgeConferencing （6 ページ）
- EnableCalendarIntegration （6 ページ）
- EnableLoadAddressBook （7 ページ）
- EnableProximity （7 ページ）
- EnableSaveChatHistoryToExchange （7 ページ）
- EnableVoipSocket （8 ページ）
- Exchange_UseCredentialsFrom （8 ページ）
- ExchangeAuthenticateWithSystemAccount （9 ページ）
- ExchangeAutodiscoverDomain （9 ページ）
- ExchangeDomain （10 ページ）
- ExchangeModernAuthentication （11 ページ）
- ExternalExchangeServer （11 ページ）
- HeadsetPreference （11 ページ）
- InternalExchangeServer （12 ページ）
- lastselectedline （12 ページ）
- Location_Enabled （12 ページ）
- LOCATION_MATCHING_MODE （13 ページ）

• Location_Mode （13 ページ）
• MacCalendarIntegrationType （13 ページ）
• multiline1_ringtonename ～ multiline8_ringtonename （14 ページ）
• RefreshCustomTabsOnNetworkChange （14 ページ）
• SaveChatHistoryToExchangeOperationMode （14 ページ）
• Set_Status_Away_On_Inactive （15 ページ）
• Set_Status_Away_On_Lock_OS （16 ページ）
• Set_Status_Inactive_Timeout （16 ページ）
• ShowContactPictures （16 ページ）
• ShowOfflineContacts （17 ページ）
• ShowTabLabel （17 ページ）
• Start_Client_On_Start_OS （17 ページ）
• StartCallWithVideo （17 ページ）
• UseBridgeForConferenceCalls （18 ページ）
• UserBridgeUriAdmin （18 ページ）

AdminConfiguredBot

Cisco Jabber デスクトップ、iPhone、および iPad クライアントに適用されます。

会社のディレクトリでボットに割り当てられた Jabber ID を使用して、ボットを Jabber のユーザーの連絡先リストに自動的に追加します。ユーザーの連絡先リストにグループ **_BotGroup** が作成されます。ユーザーは、連絡先リストにボットを手動で追加することもできます。

例：

```
<AdminConfiguredBot>bot1@example.com;bot2@example.com;bot3@example.com</AdminConfiguredBot>
```

AllowUserCustomTabs

デスクトップクライアント版およびモバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーがクライアントでカスタム埋め込みタブを作成できるようにするかどうかを指定します。

モバイルクライアントの場合、カスタムタブをいくつでも追加できますが、クライアントに表示されるカスタムタブは 10 個だけです。クライアントに 10 個のカスタムタブを追加した場合、ユーザーはそれ以上カスタムタブを追加できません。

- true（デフォルト）：カスタムタブを作成するメニューオプションがクライアントに表示されます。
- false：カスタムタブを作成するメニューオプションはクライアントに表示されません。

例：`<AllowUserCustomTabs>false</AllowUserCustomTabs>`

BrowserEngineForCustomTab

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber は、カスタムタブのデフォルトブラウザエンジンとして Chrome を使用します。ただし、一部の展開では、Chrome エンジンが適切に機能しない場合があります。

リリース 12.6 (2) 以降では、BrowserEngineForCustomTab を使用してカスタムタブのブラウザエンジンを選択できます。使用できる値は次のとおりです。

- Chrome (デフォルト): カスタムタブのブラウザエンジンとして Chrome を使用します。
- IE: カスタムタブのブラウザエンジンとして IE を使用します。

例：`<BrowserEngineForCustomTab>Chrome</BrowserEngineForCustomTab>`

CalendarAutoRefreshTime

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

統合されたカレンダーが更新されるまでの時間を分単位で指定します。デフォルト値はゼロです。これは、カレンダーが自動的に更新されないことを意味します。この構成キーは、Google カレンダーと IBM Notes カレンダーの統合でのみ機能します。

Mac のデフォルト値は 5 です。これは、カレンダーが 5 秒ごとに自動的に更新されることを意味します。この構成キーは、Exchange カレンダー統合でのみ機能します。

（注） 高頻度の更新は、IBM Lotus Notes サーバーのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

例：`<CalendarAutoRefreshTime>0</CalendarAutoRefreshTime>`

CalendarIntegrationType

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

このパラメータは Meetings_Enabled パラメータと連携して機能します。

- 0：クライアント ユーザーインターフェイスの [会議（Meetings）] タブでの予定表との統合を無効化します。このパラメータを無効にすると、クライアント内の [会議（Meetings）] タブは空になりますが、[会議（Meetings）] タブはハブウィンドウに残ります。
- 1：クライアントユーザーインターフェイスの [会議（Meetings）] タブでの Microsoft Outlook 予定表との統合を有効化します。

- 2：クライアントユーザーインターフェイスの [会議（Meetings）] タブでの IBM Lotus Notes 予定表との統合を有効化します。
- 3：クライアントユーザーインターフェイスの [会議（Meetings）] タブでの Google Calendar との統合を有効化します。

Cisco Jabber を再起動し、変更を適用します。

例：`<CalendarIntegrationType>1</CalendarIntegrationType>`

（注）

- クライアントユーザーは、[オプション（Options）] ダイアログの [予定表（Calendar）] タブでこの設定を上書きできます。
- これらのパラメータは、予定表の統合と連絡先の解決のために相互作用します。
  - CalendarIntegrationType
  - EnableLocalAddressBookSearch
  - EnableLotusNotesContactResolution

  詳細については、『*Cisco Jabber* の機能設定』ガイドを参照してください。

Callhistory_Expire_Days

すべてのクライアントに適用されます。

通話履歴が削除されるまでの日数を設定します。保存されるレコードの最大数は 250 です。

値がゼロまたは指定されていない場合、通話履歴には通話レコードの最大数（250）が保存されます。

例：`<Callhistory_Expire_Days>2</Callhistory_Expire_Days>`

通話履歴項目が 250 件に達するか、指定された有効期限が切れると、最も古い項目が削除されます。

ConfigRefetchInterval

Cisco Jabber のすべてのクライアントに適用されます。

Jabber がサーバーから新しい構成を取得する間隔を時間単位で指定します。Jabber は、指定された値の前後 1 時間以内にランダムな再フェッチポイントを選択します。たとえば、値が 5 の場合、Jabber は 4 ～ 6 時間の間でランダムな時間を選択します。最小値は 4 です。

デフォルト値は 8 時間です。

例：`<ConfigRefetchInterval>5</ConfigRefetchInterval>`

ConfMediaType

すべてのクライアントに適用されます。

クライアントが Cisco Collaboration Meeting Rooms の会議に接続する方法を指定します。たとえば、パラメータを WebExOnly に設定し、ユーザーが [ミーティング（Meetings）] タブまたはミーティング招待状で [参加（Join）] を選択すると、Webex を使用して会議に接続されます。

Cisco Collaboration Meeting Rooms の会議招待タイプを指定します。

- BridgeOnly：参加ボタンでは SIP を使用して会議に参加します。
- WebExOnly：参加ボタンでは Webex を使用して会議に参加します。
- 定義なし：参加ボタンでは SIP を使用して会議に参加し、リンクでは Webex を使用して会議に参加します。

例：`<ConfMediaType>WebExOnly</ConfMediaType>`

Disable_Meeting_SSO_Browser_Cache

Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

SSO SessionTicket に対応するためのブラウザのキャッシュを有効または無効にするユーザーを指定します。

- true：ブラウザのキャッシュは無効です。
- false（デフォルト）：ブラウザのキャッシュが有効です。

DisableClientConfigExchangeServer

Cisco Jabber for Windows および Cisco Jabber for Mac に適用されます。

InternalExchangeServer および ExternalExchangeServer のクライアント設定を無効にし、TFTP サーバーで InternalExchangeServer および ExternalExchangeServer を使用するように強制します。

- true：InternalExchangeServer および ExternalExchangeServer のクライアント設定を無効にします。
- false（デフォルト）：InternalExchangeServer および ExternalExchangeServer のクライアント設定を有効にします

例：

```
<DisableClientConfigExchangeServer>true</DisableClientConfigExchangeServer>
```

DockedWindowPosition

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザの画面でのドック ウィンドウの位置を設定します。

- TopCenter（デフォルト）：ドッキングウィンドウの位置が画面の中央上部になります。
- TopLeft：ドッキングウィンドウの位置は画面の左上です。
- TopRight：ドッキングウィンドウの位置は画面の右上です。

例：`<DockedWindowPosition>TopLeft</DockedWindowPosition>`

DockedWindowVisible

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアント起動時にドック ウィンドウを表示するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：クライアントが起動したときに、ドッキング ウィンドウが表示されます。
- false：クライアント起動時にドッキング ウィンドウは表示されません。

例：`<DockedWindowVisible>false</DockedWindowVisible>`

EnableBridgeConferencing

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントで [自分の会議サービスを使う（Use My Conference Service）] オプションを使用できるかどうかを指定します。

- true：会議サービスのオプションがクライアントに表示されます。
- false（デフォルト）：会議サービスのオプションはクライアントに表示されません。

例：`<EnableBridgeConferencing>true</EnableBridgeConferencing>`

EnableCalendarIntegration

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントで会議オプションを使用できるかどうかを指定します。

- true：クライアントで会議オプションを使用できます。ユーザーのデバイスの予定表内のすべてのイベントが Jabber と統合されます。
- false（デフォルト）：会議オプションはクライアントで使用できません。

例：

```
<EnableCalendarIntegration>true</EnableCalendarIntegration>
```

EnableLoadAddressBook

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

電話のネイティブの連絡先が Cisco Jabber の連絡先リストに読み込まれるかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：ネイティブの連絡先が Cisco Jabber の連絡先リストに読み込まれます。
- false：ネイティブの連絡先は Cisco Jabber の連絡先リストに読み込まれません。

例：`<EnableLoadAddressBook>true</EnableLoadAddressBook>`

EnableProximity

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber クライアントがプロキシミティ対応デバイスに接続し、画面をワイヤレスで共有できるようにします。プロキシミティは、超音波リスニングによって有効になります。超音波オーディオのキャプチャには、48KHz のサンプルレートが必要です。超音波オーディオのキャプチャを機能させるには、マイクのミュートを解除する必要があります。Bluetooth ヘッドセットを使用している場合、デバイスの検出に影響を与える可能性があります。

サポートされるデバイスには、Cisco MX、SX、DX、IX および Cisco Webex Room Series のエンドポイントがあります。デバイスには接続上限があります。接続がいっぱいの場合、他の誰かがデバイスから切断するまで、新しいペアリングリクエストは受け入れられません。

- true（デフォルト）：ユーザーはプロキシミティ対応デバイスとペアリングできます。
- false：ユーザーはプロキシミティ対応デバイスとペアリングできません。

例：<EnableProximity>true</EnableProximity>

EnableSaveChatHistoryToExchange

オンプレミスおよび Office 365 展開の Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントが自動的にユーザーの Microsoft Outlook アプリケーションでチャット履歴を Cisco Jabber Chats フォルダに保存できるようにします。

- true：チャット履歴を Outlook フォルダに保存できるようにします。
- false（デフォルト）：チャット履歴を Outlook フォルダに保存しません。

例：`<EnableSaveChatHistoryToExchange>true</EnableSaveChatHistoryToExchange>`

EnableVoipSocket

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

重要 Apple プッシュ通知（APN）の変更により、2020 年 8 月の時点でこのパラメータは非推奨になりました。VoIP ソケットを閉鎖しました。

Jabber が Cisco Unified Communications Manager サーバーと SIP コネクションをセットアップするために VoIP ソケットを使用するかどうかを指定します。Jabber が非アクティブの場合でも、Jabber はキープアライブ タイマー パラメータを更新して Cisco Unified Communications Manager サーバーを再登録し、VoIP ソケットを介して SIP が登録された状態を保ちます。

APN を使用している場合、Jabber ユーザーは、Jabber アプリが非アクティブであっても、常に Jabber で通話を受信します。APN を使用していない場合は、このパラメータを true に設定して、アプリが非アクティブであっても、Jabber ユーザーが通話を受信できるようにします。

Jabber は、iOS によって TCP 接続がタイムアウトするまで、Cisco UC Manager デバイスページに登録されます。

- true（デフォルト）：VoIP ソケットとキープアライブタイマーが有効になっており、Jabber が非アクティブの場合でも通話を受信できます。
- false：VoIP ソケットとキープアライブタイマーが無効になっています。APN が有効になっている場合にのみ、値を false に設定することをお勧めします。それ以外の場合、このパラメータを false に設定すると、Cisco Unified Communications Manager との SIP 接続は、オペレーティングシステムによって制御される短い期間後に閉じられ、Jabber が非アクティブになります。

パラメータ値が変更されると、Cisco Jabber はユーザーを自動的にサインアウトします。

例：`<EnableVoipSocket>true</EnableVoipSocket>`

Exchange_UseCredentialsFrom

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Office 365 展開では使用できません。

Microsoft Exchange サーバーへの認証方式。チャット履歴を Microsoft Outlook フォルダに保存するために、ユーザーの次の Authenticator 引数ログイン情報のいずれかを使用して Exchange ログイン情報を同期します。

- CUP：IM and Presence Service のログイン情報を Exchange に使用します
- CUCM：Cisco Unified Communications Manager のログイン情報を Exchange に使用します
- WEBEX：Webex のログイン情報を Exchange に使用します

例：`<Exchange_UseCredentialsFrom>CUCM</Exchange_UseCredentialsFrom>`

ExchangeAuthenticateWithSystemAccount

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Microsoft Exchange サーバーへの認証方式。チャット履歴を Microsoft Outlook フォルダに保存するために、パラメータは、クライアントがサインインしているユーザーのオペレーティングシステム アカウントの詳細を使用して Exchange Server の認証を受られるようにします。この認証方式は、Windows NT LAN Manager（NTLM）セキュリティプロトコルを使用します。

- true（デフォルト）：クライアントは、ユーザーのオペレーティング システムアカウントの詳細を使用して Exchange Server との認証を行います。
- false：クライアントは、Exchange Server との認証にユーザーのオペレーティング システムアカウントの詳細を使用しません。代わりに、ユーザーは [オプション（Options）] ダイアログの [Outlook] タブにログイン情報を入力する必要があります。

ExchangeModernAuthentication が有効になっている場合、Jabber は ExchangeAuthenticateWithSystemAccount を無視します。

例：`<ExchangeAuthenticateWithSystemAccount>false</ExchangeAuthenticateWithSystemAccount>`

ExchangeAutodiscoverDomain

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントが Exchange サーバーの検索に使用するドメインを指定します。これは、Exchange サーバーのドメインがユーザーのログイン情報のドメインと異なる場合に使用されます。

パラメータの値を Exchange サーバーを検出するドメインとして定義します。クライアントは、このドメインを使用して、次の Web アドレスのいずれかで Exchange Server を検索します。

```
https://<domain>/autodiscover/autodiscover.svc
```

```
https://autodiscover.<domain>/ autodiscover/autodiscover.svc
```

ExchangeModernAuthentication が有効になっている場合、Jabber は ExchangeAutodiscoverDomain を無視します。

（注） Jabber は、次の順序で Microsoft Exchange サーバー ディスカバリ パラメータを優先します。

1. EmailAsExchangeDiscoverDomain
2. ExchangeAutodiscoverDomain
3. ExchangeDomain

例：`<ExchangeAutodiscoverDomain>domain</ExchangeAutodiscoverDomain>`

ExchangeDomain

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Microsoft Exchange サーバーのドメインを指定します。このパラメータは、次の例に示すように、Exchange_UseCredentialsFrom パラメータと連動します。

- Exchange_UseCredentialsFrom = CUCM（ユーザー名は username@domain.com の形式）
- ExchangeDomain = otherdomain.com
- この場合、username@otherdomain.com は Exchange サーバーでの認証に使用されます。

このパラメータは、次のシナリオで使用します。

- Exchange サーバーと Cisco Unified Communications Manager に異なるドメインがある場合。
- Cisco Unified Communications Manager が 10.5 リリースより前で、Office 365 で認証する場合。10.5 より前の Cisco Unified Communications Manager では、ログイン情報にドメインは含まれていませんが、Office 365 での認証にはドメインが必要です。このパラメータを使用して、Exchange サーバーのドメインを設定します。

（注） Cisco Jabber for Windows の場合、ExchangeAuthenticateWithSystemAccount パラメータが true に設定されている場合、このパラメータは効果がありません。

（注） Jabber は、次の順序で Microsoft Exchange サーバー ディスカバリ パラメータを優先します。

1. EmailAsExchangeDiscoverDomain
2. ExchangeAutodiscoverDomain
3. ExchangeDomain

ExchangeModernAuthentication

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber がモダン認証を使用して Exchange サーバーへの認証を行うかどうかを決定します。

キーを true に設定して、Office 365 展開での Exchange サービスへの Office 365 自動検出とモダン認証を有効にします。

ExchangeModernAuthentication が有効な場合、Jabber は次のパラメータを無視します: ExchangeAuthenticateWithSystemAccount、ExchangeAutodiscoverDomain、InternalExchangeServer、ExternalExchangeServer。

- true：モダン認証が有効です。
- false（デフォルト）：モダン認証は無効です。

```
<ExchangeModernAuthentication>true</ExchangeModernAuthentication
```

ExternalExchangeServer

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Exchange サーバーのアドレスを指定します。クライアントは、チャット履歴を Outlook フォルダに保存するときにこのサーバーを使用します。

ExchangeModernAuthentication が有効になっている場合、Jabber は ExchangeAuthenticateWithSystemAccount を無視します。

例：`<ExternalExchangeServer>external_exchange_server</ExternalExchangeServer>`

HeadsetPreference

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber が新しいオーディオデバイスをデバイスの優先順位リストの一番上と一番下のどちらに追加するかを指定します。デバイスの優先順位リストは、オーディオの [詳細設定（Advanced）] にあります。

- PreferNewDevice（デフォルト）：Cisco Jabber は新しいオーディオデバイスをリストの一番上に追加し、優先デバイスにします。
- PreferOldDevice：Cisco Jabber は、構成された優先デバイスに変更を加えずに、新しいオーディオデバイスをリストの一番下に追加します。

（注） このパラメータは、廃止された HeadsetPreferenceOnVDI パラメータに置き換わるものです。

例：

```
<HeadsetPreference>PreferOldDevice</HeadsetPreference>
```

InternalExchangeServer

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

サーバーアドレスの指定方式。チャット履歴を Outlook フォルダに保存するために、手動で内部 Exchange サーバーを定義します。

ExchangeModernAuthentication が有効になっている場合、Jabber は InternalExchangeServer を無視します。

例：`<InternalExchangeServer>Internal_exchange_server</InternalExchangeServer>`

lastselectedline

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

複数回線電話で最後に選択された回線を指定します。

例：

```
<lastselectedline>Line3: 332102</lastselectedline>
```

Location_Enabled

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber 設定で [ロケーション（Location）] タブを表示するかどうかを指定します。[ロケーション（Location）] タブは、場所関連の設定に使用されます。

- true（デフォルト）：[ロケーション（Location）] タブがクライアントに表示されます。
- false：[ロケーション（Location）] タブはクライアントに表示されません。

例：`<Location_Enabled>false</Location_Enabled>`

LOCATION_MATCHING_MODE

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントがロケーション機能の現在のネットワークロケーションを検出する方法を決定します。

- MacAddressOnly（デフォルト）：クライアントはネットワーク デフォルト ゲートウェイの MAC アドレスを使用します。
- MacAddressWithSubnet：クライアントはデフォルトゲートウェイのサブネットアドレスと MAC アドレスの一意のペアを使用します。

例：`<LOCATION_MATCHING_MODE>MacAddressWithSubnet</LOCATION_MATCHING_MODE>`

Location_Mode

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ロケーション機能をオンにするかどうかと新しいロケーションの検出時にユーザーに通知するかどうかを指定します。

- ENABLED（デフォルト）：ロケーション機能がオンになります。新しいロケーションの検出時にユーザーに通知されます。
- DISABLED：ロケーション機能がオフになります。新しいロケーションの検出時にユーザーに通知されません。
- ENABLEDNOPROMPT：ロケーション機能がオンになります。新しいロケーションの検出時にユーザーに通知されません。

例：`<Location_Mode>DISABLED</Location_Mode>`

MacCalendarIntegrationType

Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

このパラメータは、Meetings_Enabled パラメーターと連携して、Jabber と統合する予定表のタイプを指定します。

- 0：クライアントの [会議（Meetings）] タブでの予定表との統合を無効化します。このパラメータを無効にすると、[会議（Meetings）] タブは空になりますが、クライアント内に残ります。

- 1（デフォルト）：クライアントの [会議（Meetings）] タブでの Microsoft Outlook 予定表との統合を無効化します。
- 2：クライアントの [会議（Meetings）] タブでの Mac カレンダーとの統合を有効化します。
- 3：クライアントの [会議（Meetings）] タブでの Google カレンダーとの統合を有効化します。

例：`<MacCalendarIntegrationType>2</MacCalendarIntegrationType>`

multiline1_ringtonename ～ multiline8_ringtonename

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

複数回線電話の特定の回線に使用する着信音を指定します。着信音は 8 回線まで指定できます。

例：この例では、電話機の 3 番目の回線の着信音を設定します。

```
<multiline3_ringtonename>Playful</multiline3_ringtonename>
```

RefreshCustomTabsOnNetworkChange

デスクトップクライアントに適用されます。

Jabber がネットワークの問題によって読み込まれないカスタムタブを更新するかどうかを指定します。

- true：Jabber は、ネットワークが変更されたときに読み込みエラーが発生したカスタムタブを更新します。
- false（デフォルト）：Jabber は、ネットワークが変更されたときに読み込みエラーが発生したカスタムタブを更新しません。

例：`<RefreshCustomTabsOnNetworkChange>true</RefreshCustomTabsOnNetworkChange>`

SaveChatHistoryToExchangeOperationMode

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

EnableSaveChatHistoryToExchange パラメータを置き換えます。

ユーザーの Microsoft Outlook アプリケーションの Cisco Jabber Chats フォルダにチャット履歴を保存できるかどうかを指定します。

- DisabledByPolicy（デフォルト）：Microsoft Outlook にチャット履歴を保存できません。[チャットセッションを Microsoft Outlook の Cisco Jabber Chats フォルダに保存（Save chat

sessions to "Cisco Jabber Chats" Folder in Microsoft Outlook）] オプションはクライアントで表示されません。

- EnabledByPolicy：チャットが Microsoft Outlook に保存されます。[チャットセッションを Microsoft Outlook の Cisco Jabber Chats フォルダに保存（Save chat sessions to "Cisco Jabber Chats" Folder in Microsoft Outlook）] オプションはクライアントで表示されますが、ユーザーはアクセスできません。

（注） このオプションでは、Exchange Server で認証するようにクライアントの認証を設定する必要があります。シングルサインオンを使用して認証するか、ログイン情報を同期するかを選択できます。詳細については、『*Cisco Jabber* オンプレミス展開ガイド』を参照してください。

- DisabledByDefault：Microsoft Outlook にチャットを保存できます。[チャットセッションを Microsoft Outlook の Cisco Jabber Chats フォルダに保存（Save chat sessions to "Cisco Jabber Chats" Folder in Microsoft Outlook）] オプションはクライアントでオフになっていますが、ユーザーはそれを変更できます。
- EnabledByDefault：Microsoft Outlook にチャットを保存できます。[チャットセッションを Microsoft Outlook の Cisco Jabber Chats フォルダに保存（Save chat sessions to "Cisco Jabber Chats" Folder in Microsoft Outlook）] オプションはクライアントでオンになっていますが、ユーザーはそれを変更できます。
- OnPremOnlyByPolicy：Jabber が企業のネットワーク上にある場合にのみ、チャットが Microsoft Outlook に保存されます。Jabber は MRA 経由でチャットを Outlook に保存しません。[チャットセッションを Microsoft Outlook の Cisco Jabber Chats フォルダに保存（Save chat sessions to "Cisco Jabber Chats" Folder in Microsoft Outlook）] オプションは [オプション（Options）] メニューの [Outlook] タブに表示されますが、グレー表示になっており、ユーザーは変更できません。
- OnPremOnlyByPolicy：Jabber が企業のネットワーク上にある場合にのみ、ユーザーはチャットを Microsoft Outlook に保存できます。Jabber は MRA 経由でチャットを Outlook に保存しません。[チャットセッションを Microsoft Outlook の Cisco Jabber Chats フォルダに保存（Save chat sessions to "Cisco Jabber Chats" Folder in Microsoft Outlook）] オプションは [オプション（Options）] メニューの [Outlook] タブでオンになっていますが、ユーザーはそれを変更できます。

例：

```
<SaveChatHistoryToExchangeOperationMode>EnabledByDefault</SaveChatHistoryToExchangeOperationMode>
```

Set_Status_Away_On_Inactive

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが非アクティブになったときにアベイラビリティ ステータスを [退席中（Away）] に変更するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：ユーザーが非アクティブになると、応答可否ステータスが [退席中（Away）] に変化します。
- false：ユーザーが非アクティブになっても、応答可否ステータスは [退席中（Away）] に変更されません。

例：`<Set_Status_Away_On_Inactive>false</Set_Status_Away_On_Inactive>`

Set_Status_Away_On_Lock_OS

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがオペレーティング システムをロックしたときにアベイラビリティ ステータスが [退席中（Away）] に変更するかどうかを指定します。

- ユーザーがオペレーティングシステムをロックすると、アベイラビリティ ステータスが [退席中（Away）] に変更されます。
- false：ユーザーがオペレーティングシステムをロックしても、アベイラビリティ ステータスは [退席中（Away）] に変更されません。

例：`<Set_Status_Away_On_Lock_OS>false</Set_Status_Away_On_Lock_OS>`

Set_Status_Inactive_Timeout

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが非アクティブになった場合にアベイラビリティ ステータスが [退席中（Away）] に変更される前の時間を分単位で設定します。

デフォルト値は 15 です。

例：`<Set_Status_Inactive_Timeout>10</Set_Status_Inactive_Timeout>`

ShowContactPictures

Windows 版 Cisco Jabber クライアントに適用されます。

連絡先リストに連絡先画像を表示するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：連絡先写真が連絡先リストに表示されます。
- false：連絡先リストに連絡先画像が表示されません。

例：`<ShowContactPictures>false</ShowContactPictures>`

ShowOfflineContacts

Windows 版 Cisco Jabber およびモバイルクライアントのみに適用されます。

連絡先リストにオフラインの連絡先を表示するかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：オフラインの連絡先が連絡先リストに表示されます。
- false：連絡先リストにオフラインの連絡先は表示されません。

例：`<ShowOfflineContacts>false</ShowOfflineContacts>`

ShowTabLabel

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

デフォルトでは、リリース12.6 では、クライアントはハブ ウィンドウにタブ ラベルを表示しませんでした。ユーザは、設定を使用してタブ ラベルを有効にすることができます。

タブを表示するためのデフォルトの動作を変更する場合は、新しい ShowTabLabel パラメータを使用します。使用できる値は次のとおりです。

- true：クライアントはタブラベルを表示します。
- false（デフォルト）：クライアントはタブラベルを表示しません。

例：`<ShowTabLabel>true</ShowTabLabel>`

Start_Client_On_Start_OS

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

オペレーティング システムの起動時に、クライアントを自動的に起動するかどうかを指定します。

- true：クライアントは自動的に起動します。
- false（デフォルト）：クライアントは自動的に起動しません。

例：`<Start_Client_On_Start_OS>true</Start_Client_On_Start_OS>`

StartCallWithVideo

Cisco Jabber for Windows および Cisco Jabber for Mac に適用されます。

ユーザがコールを発信するときに、コールがどのように開始されるかを指定します。コールは、音声のみ、または音声とビデオにより開始できます。

- true（デフォルト）：コールが常に音声とビデオで開始します。
- false：コールは常に音声のみで始まります。

例：`<StartCallWithVideo>false</StartCallWithVideo>`

重要 サーバの設定は、このクライアントの設定ファイルのパラメータよりも優先されます。ただし、ユーザがクライアントのユーザ インターフェイスでデフォルトのオプションを変更した場合、その設定はサーバとクライアントの両方よりも優先されます。

Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以降の場合

1. [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。
2. **[システム（System）]**>**[エンタープライズパラメータ（Enterprise Parameters）]** を選択します。
3. [ビデオで通話を開始しない（Never Start Call with Video）] パラメータの値を設定し、[保存（Save）] を選択します。

UseBridgeForConferenceCalls

すべてのクライアントに適用されます。

ユーザーが会議ブリッジを使用して電話会議を行うことができるかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：ユーザーには、[自分の会議サービスを使う（Use My Conference Service）] が有効になっていることが表示されます。
- false：ユーザーには、[自分の会議サービスを使う（Use My Conference Service）] が無効になっていることが表示されます。

例：`<UseBridgeForConferenceCalls>false</UseBridgeForConferenceCalls>`

UserBridgeUriAdmin

すべてのクライアントに適用されます。

クライアントの会議サービスのパターンを指定します。たとえば、パターンが `%%uid%%@example.com` に設定され、ユーザー Adam McKenzie のユーザー ID が amckenzie である場合、会議サービスは自動的に amckenzie@example.com に設定されます。このパラメータは、EnableBridgeConferencing で使用されます。

例：`<UserBridgeUriAdmin>%%uid%%@example.com</UserBridgeUriAdmin>`

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。